



日サ協発第 26040010 号
2026年5月XX日

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から、2026年3月31日付回状第32号をもって、サッカー競技規則2026/27の改正を含む、第140回IFAB年次総会における決定について通達が出されました。

この回状において、今回の改正における概要が記されております。今回の改正では、試合のテンポを乱す行為を削減するために、いくつかの措置が講じられることが中心に扱われています。これらの取り組みにより、試合時間を無駄に失わせることなく、魅力的なゲームを展開し、さらにサッカー競技のイメージを高めることが期待されています。改正の内容に関する詳細については、添付文書1「2026/27 競技規則変更－概要と詳細」をはじめとした各添付文書をご覧ください、サッカー競技に関わる方々、とりわけ監督、コーチ、そして審判員の皆さまには、これらの内容を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきますよう、お願い申し上げます。また同時に、各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、併せてお願い申し上げます。

これらの改正等は、国際的には2026年7月1日から有効となります。日本サッカー協会、各地域/都道府県サッカー協会等が主催する試合については、添付2のとおり適用されます。なお、今回の競技規則の主な改正についての説明用映像を本協会のホームページに6月下旬頃掲載する予定です。

記

第140回国際サッカー評議会年次総会の決定について

関係各位

第140回国際サッカー評議会(IFAB)年次総会が、ウェールズサッカー協会会長マイク・ジョーンズ氏の議事進行により、2026年2月28日ウェールズのハンソルにおいて開催された。年次総会で採択された決定事項の概要は、以下の通りである。

1. サッカー競技規則2026/27

試合のテンポの乱れや時間の損失に対応するための措置

昨年、(目で見てわかる5秒のカウントダウンを含む)ゴールキーパーの手、または腕によってボールをコントロールすることへの8秒制限が成功裏に導入されたことに続き、年次総会出席者は、プレー停止の回数と時間の両方を、さらに減らすことを目的とした追加措置を承認した。これらの措置は、ゲームの流れとテンポが保たれる手助けとなることを意図している。

主な原則は以下の通りである。

- **スローインおよびゴールキック**

スローインやゴールキックが、再開を行うチームによって意図的に遅らされているとき、主審は笛を吹き、合図をして目で見てわかるように5秒をカウントダウンする。ボールがカウントダウンの終了までにインプレーにならない場合、

- スローイン:主審は、元のスローインと同じ位置から行われるスローインを相手チームに与える。
- ゴールキック:主審は、ゴールキックが行われようとしていた位置に最も近い側から行うコーナーキックを相手チームに与える。

- **交代**

一旦、主審によって交代が合図されたか、または交代ボードが表示されたならば、交代して退く競技者は10秒以内に競技のフィールドを離れなければならない。時間以内にフィールドを離れない場合、それでも競技者はできるだけ素早く離れなければならないが、交代要員はプレー再開後(時計を止めずに計測して)1分が経過した後の最初のプレー停止時まで入ることができない。

- **負傷**

実際に負傷した、または負傷が疑われプレーを停止する原因となったフィールドプレーヤー、あるいは競技のフィールド上で負傷の程度の判断や治療を受けた競技者は、試合のテンポを乱すことを減らすためだけでなく、その競技者にプレーを継続させるべきかどうかをメディカルスタッフが見きわめるのに必要な時間をかけさせるようにするため、プレーが再開されて(時計を止めずに計測したまま)1分間フィールドを離れていなければならない。ただし、この条項は、第5条に記載された、負傷した競技者が競技のフィールドを離れる必要がない場合には適用しない。

ビデオ・アシスタント・レフェリーの実施手順

比較的まれではあるが、以下の事象がVAR実施手順のもと、レビューできるようになる。

- 明らかに間違った2枚目のイエローカードに起因するレッドカード
- 競技者がイエローカード、またはレッドカードを受けたが、カードを提示される元となった反則がいずれかのチームの他の競技者によって行われたときの間違い
- プレーの再開を遅らせることなく、判定が直ちに訂正される場合に限った、明らかに間違っていて与えられたコーナーキック(競技会で選択できる)

VAR実施手順が導入されてから10年が経過したことを受け、出席者はVARシステムの効率性と公平性を高めることを目的とした改善の可能性を見出すために、見直しを行う価値があると合意した。

その他の主な改正

また、出席者は、以下を含むサッカー競技規則2026/27におけるその他の改正を承認した。

第3条 – 競技者

- 各国の「A」代表チームの親善試合で使うことができる交代要員の数を8人、または両チームが

合意した場合11人にまで増やすことができる。両チームはハームタイムに加え、3回の交代の回数が認められる。

第4条－競技者の用具

- (従来「装身具」と呼ばれていた)アクセサリーは、危険なものではなく、安全に、かつ確実に覆われている場合、認められるようになる。

第5条－主審

- プレーの再開が正しくなくてもボールがインプレーになったときは、アドバンテージが適用されることがある。
- 競技会は、審判員にボディカメラを着用させることができる。

第12条－ファウルと不正行為

- アドバンテージが適用され、得点が決まった場合の決定的な得点機会の阻止の反則には、警告(イエローカード)が示されない。

競技規則の施行及び翻訳の手助けとするため、以下の添付の文書をご覧いただきたい。また、これらの文書はwww.theifab.com/documents にも掲載している。

- サッカー競技規則2026/27－競技規則の改正
- 試合のテンポを乱し時間の損失に対応するための措置に関わる実施手順
 - スローインおよびゴールキック時のカウントダウン実施手順
 - 競技のフィールド外での治療および負傷の程度の判断に関する実施手順
 - 制限時間のある交代の実施手順

サッカー競技規則2026/27は、2026年7月1日から有効となる。その日付以前に開始される競技会は、実施変更を早める、または次の競技会が始まるまでには行うよう実施を遅らせることができる。

2. その他の事項

出席者は、その他の事項について最新の情報と、以下に関する試行が継続されることの報告を受けた。

- フットボールビデオサポート
- オフサイド
- クーリングオフ時間(グラスルーツの試合で)

また、年次総会出席者は、「キャプテンオンリー」ガイドラインが2027年7月1日以降必須の実施手順となること、およびゴールキーパーが負傷したと言い張ることで戦術的にプレーを停止させることに対して、このますます拡大している課題に解決策を見出し、特定していくため様々な対策が試行されていくことを決定した。

IFABとFIFAは、以下の行為を防止するため、緊急に罰則を検討していくことで合意した。

- 競技者またはチームが、主審の判定に抗議する手段として、競技のフィールドを離れる
- 競技者が、相手と対立しているときに自分の口を覆う

サッカー競技規則2026/27完全版の冊子は、近くIFABのウェブサイトからダウンロードできるようになる。また、競技規則の最新版は、2026年7月1日よりIFABのアプリ (<https://www.theifab.com/logapp/>)でも閲覧できるようになる。

競技規則の冊子をご希望であれば、2026年3月31日以降、1冊3.70スイスフランでIFABのウェブショップ shop.theifab.com から、事前に注文することができる。適切な適当な正しい冊数を実際に製作するためにも、遅くとも2026年4月30日までに発注を済ませられたい。後からの注文は製作にかかる費用の増加を負うことになり、その結果1冊あたりの価格が高くなる可能性があることにご注意願いたい。

IFABは、競技規則が継続的に進化し、競技のフィールドにおける公平、公正さと高潔さを促進、また保証するため、そしてすべてのレベルの試合で競技における変化を反映していけるよう、引き続きサッカー関係者と緊密に連携し、尽力していく。

皆さま方のご協力に感謝する。何か疑義、質問があれば、お問い合わせいただきたい。

IFAB 事務局長

ルーカス ブラッド



[添付]

添付1:サッカー競技規則2026/27変更の概要と詳細

添付2:サッカー競技規則2026/27適用開始日

添付3:「制限時間付き交代の実施手順」

添付4:「フィールド外での治療および負傷の程度の判断に関する実施手順」

添付5:「スローインおよびゴールキック時のカウントダウン実施手順」